

令和 7 年 2 月 2 6 日

日光市議会議長 齋 藤 文 明 様

日光市議会議員 田 村 耕 作

議 員 派 遣 報 告 書

目 的 (会議等の名称)	地方議員、地方議会のあるべき姿とは 講座 1 地方議会の仕事とは 講座 2 効果を上げる議員活動とは
会議等の 主催者の名称	地方議員研究会
場 所	名称等：リファレンス西新宿大京ビル 2 階 住 所：東京都新宿区西新宿 7 丁目 2 1 - 3
期 間	令和 7 年 1 月 2 5 日（土）～令和 7 年 1 月 2 6 日（日）
会議等の内容	別紙資料のとおり
会議等の 所感・成果等	<p>上記の目的の通り、「地方議員、地方議会のあるべき姿とは」を表題とした議員研修に参加した。</p> <p>「地方議会の仕事とは」については、2 人の地方議会出身の講師の方がみずからの経験談を披露しながらの講演であった。まずはじめに、各自がワークシートに今回の研修にエントリーした動機や目的、議員、議会活動の課題等を書き込んで、3 分間のスピーチをする。今までにない手</p>

法で少し戸惑ったが、日頃聞けない同僚議員や他市議会議員の考えがかいま見られ、また、講師が一人一人にコメントやアドバイス等を挟みながら丁寧に進めていったのは参考になった。

○木村亮太氏…議員活動について、有権者に広く自らの議員活動を伝えていくには、SNS等による空中戦が有効であるとのこと。ただ、闇雲に情報を発信するのではなく、なぜ発信したのか、伝えたいことは何なのか、という前提の情報であったり、理解してもらいやすいデータなどを添付して理解しやすい発信をしていくことでより深く関心を持ってもらえる。そうすることが、真の議員活動に繋がっていくとのことであった。自分に置きかえて考えると、SNS等で一方的に情報発信しても、自分の深い考え方や相手の細やかな感情であったり、アナログなことではあるが、直接相手（市民）にお会いして、熱量を肌で感じながら取り組むことも忘れてはいけないと感じた。

また一方で、前述したSNS等による議員活動の発信についての一考察。発信による市民の声や問い合わせなど、それがいいことなのかどうかを逆に市民に賛否を問うことで一般質問にも生かせるし、自らの政策立案にもつながるとのことであった。確かにこの手法は、不特定少数の考えではなく、不特定多数に問うた数字なので、数による説得力もありSNSによる活動の最大のメリットであろう。いずれにしても、取り組むべき方法としてSNSはうまく使い分けながら議員活動をしていくことが肝要であると感じた。

さらに議会活動として、改選後やタイミングを見計らって、議員個々による意気込みや委員会活動等の動画を配信したり、クイズ形式を取り入れて親しみやすく読んでもらえるための広報紙作成など、我々日光市議会でも取り組んでいるような市民に理解してもらえるための様々な手法

を聞くことが出来た。

○松野豊氏…議員は、選挙によって有権者から権利を付託され、選出された「選良」という意識を忘れず、誇り高く処し、感情ではなく理性で政治を行う、議員のあるべき姿の心髓を突かれる話から始まった。その後の話の中から特に注目したのが、「議員個人の活動と選挙のための活動、会派・議会としての活動のすみ分けを明確にする」ということであった。県内各議会においても、そのすみ分けができずにいる議員のおかげで混乱をしている議会の話をよく耳にする。おそらく全国的にもその傾向が強いのではないかと推測しているが、議員となった以上、ただただ改革を旨として高らかにうたう事もいいが、すみ分けすらできずに、議会、議員活動をしていくことは大変危険であると思われる。議員個々のスキルを醸成することはもちろん必須であるが、同時に議会活動の多様性をしっかりと認識し市民ニーズにマッチした時の社会情勢をしっかりと把握しながら、決して個人の感情だけで活動することのないように常に心がけていかないと議員の資質が問われずにはいられないのではないか。

我々日光市議会は、市の最終意思決定機関としての役割を十分に果たしていると思うが、政策立案を旨とする活動はまだまだ発展途上なのかもしれない。議会として、議員として果たすべく役割を再認識し、議論を深めながら政策立案が出来る議会になっていかななくてはならない。そして、「選良」の意識を忘れることなく、議会、議員活動を進めていかななくてはと思いを強くさせられた研修であった。